

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2018 MAR.

第102号

発掘
調査遺跡
紹介

阿賀野市土橋北遺跡・柏崎市丘江遺跡



表紙：柏崎市^{かしわさきし}丘江遺跡^{おかえ}（鎌倉～室町時代の水田）遺構完掘状況（2017年度）



29年度
発掘調査
遺跡の紹介

土橋北遺跡

— 縄文時代後期・晩期の集落 —

所在地：阿賀野市百津字ヤチほか

土橋北遺跡は、阿賀野川右岸の自然堤防上で、阿賀野市街地の南側に開削された人口の排水路である安野川の南側に位置します。県営湛水防除事業（安野川地区）に伴い、平成29年4～12月まで調査を行いました。縄文時代後期前葉（今から約4,000年前）と晩期後葉（今から約2,500年前）の2面調査を行っています。下層の後期は遺物散布地です。上層の晩期が遺跡の中心で、自然流路の両岸を活動の中心とした集落であることが分かりました。遺跡は東西670mにも及び、今回の調査区は東端の範囲です。西側の調査区は阿賀野市が平成26～29年度に発掘調査を行っています。

下層の縄文時代後期は、ほぼ調査区全域に遺物が散布し、明確な遺構は土坑3基と6か所の土器集中のみでした。

上層の縄文時代晩期の集落は、建物などは検出できませんでしたが、調査区西側では自然流路SR10の両岸を中心に埋設土器4基と土器集中19か所、土坑3基、炭化物集中1か所などを検出しています。

SR10の東側でのみ検出した埋設土器4基の内、46・48・49の3基には遺跡内では見られない白色粘質土が入っており、現在科学的な分析を進めています。

SR10の下層からは縄文時代の土器が多量に出土しました。上層は大量の木でほぼ埋め尽くされた状態で川筋を検出しています。時期や木の樹種については現在分析中ですが、平安時代以前と考

えています。阿賀野市の五頭山系西側から流れ出る水はすべて標高の低い新潟市北区にある福島潟に流れ込むといい、これらの木も集中豪雨により山地の立ち木を巻き込んでSR10を流れ下ったものと推測しています。

遺物は縄文土器を中心に浅箱で62箱ほど出土しています。縄文土器は煮炊き用の深鉢・甕が主体を占め、盛付用の浅鉢も少量見られます。

後期の土器は南三十稲場式と呼ばれるものが主体です。晩期は鳥屋式と呼ばれるものが主体となっています。石器は土器に比べてわずかですが、石鏃・磨製石斧・磨石類・石皿などがあります。石鏃にはアスファルトが付着したのがあり、矢柄に装着するときの接着剤として、遺跡周辺の産地のものを使用した可能性があります。

土橋北遺跡では縄文時代後期に何らかの人々の活動があったことが確認できますが、その後調査区の東側は活動するには不便な湿地の状態であったと推測しています。約1,500年後の縄文時代晩期になるとSR10を中心に人々の活発な活動が再度見られますが、水辺での短期間の活動だったと想定しています。

このように本遺跡東端の調査区は縄文晩期が中心です。阿賀野市が調査している西側調査区は後期の土器や土偶が出土していますが、遺構はほとんど見つかっていません。これらの成果を含め、今後遺跡の性格を分析する必要があります。

(佐藤 友子)



上空西側から見た調査区



SR10遺物出土状況



29年度
発掘調査
遺跡の紹介

丘江遺跡

—水田と隠されていた生活跡—

所在地：柏崎市田塚3丁目

丘江遺跡は平成26年度から毎年調査を行っており、これまでに鎌倉時代・室町時代の集落が発見されています。平成29年度の調査では、その集落と同時期の水田と水路を上層・中層・下層の3つの層で検出しました。丘江遺跡では中世集落の北側に水田が広がっていたことが分かりました。

中層の水田は、のちに説明する河川が埋没したあとに段差を利用して造られた水田で、あぜは水田以外にも水路に沿って設けられています。

水田と関連施設以外にも遺構が検出されています。上層の水田の下からは竪穴建物、掘立柱建物、井戸、土坑を整った配置で検出しました。竪穴建物（図2）に堆積した土には植物繊維が混入し、その土を水洗いしたところ、多くの植物の種を発見しました。2.84×2.49mの方形で、四隅の外側に柱穴があります。江戸時代の農書『百姓伝記』によると馬小屋として「9尺四方か、2間四方」「わらや草をたくさん入れて踏ませる」な

どの記載があり、その可能性ががあります。

下層では平安時代の竪穴建物や、弥生時代から平安時代の流路を検出しています。竪穴建物は、後の耕作で一部壊されていますが、炭化物や焼土が集中していること、煙道が残っていたことからカマドがあったと推定しています。調査区の西側で北東-南西方向の流路を検出しました。弥生時代から平安時代の層には枝木や砂が混じり、流路であったと想定できますが、平安時代以後は鯖石川の流れが変わったためか、泥炭層が堆積するようになり、埋まったと思われます。弥生時代の流路の底からは土器や木製品、平安時代の流路からは土師器や伐採木が出土しています。

河岸の平坦な部分では縄文時代後期の土器が出土し、縄文・弥生～古墳・平安・鎌倉・室町・江戸時代と生活域や生産域と役割を変えながら連続と人々が活動していた場所であったことが分かりました。

(加藤 元康)



図1 中層の遺構全体



図2 上層の竪穴建物（長さ2.84m）



図3 下層の平安時代の竪穴建物（長さ2.8m）



図4 下層の弥生時代の流路（深さ約2m）



埋文
コラム

磨製石斧

金属製の刃物がなかった時代の人々も家づくりなどの木の加工には刃物が必要で、磨製石斧のような石の道具を使っていました(図1)。磨製石斧はそれだけで使うのではなく、木製の柄(図2)に着けて使いました。

日本では3万数千年前の後期旧石器時代初頭に、刃先だけを磨いた「局部磨製石斧」が登場しました。続く縄文時代には全面が磨かれた磨製石斧が作られるようになります。大型品は伐採用の斧、小型品は加工用の手斧として使われました。石を磨けば何でも磨製石斧になるわけではありません。刃物なので丈夫なことはもちろんのこと、木を切るには振り回せる大きさでありながら重い石でなくてはなりません。そうすると材料として選ばれる石は、蛇紋岩や斑レイ岩など種類が限られてきます。そのため、石の産地では大量に磨製石斧が生産され、各地に運ばれました。蛇紋岩産地である糸魚川市の六反田南遺跡では磨製石斧の製作途中のもの約2,000点、完成品約400点が出土しました。

弥生時代に入ると遺跡からの出土数は少なくなります。伐採用には閃緑岩製の大型蛤刃石斧、加工用には扁平片刃石斧などが使われました。



図2 長岡市大武遺跡出土
組み合わせ式斧柄の使用例(長さ約34.5cm)

磨製石斧を横から見たときに、縄文時代は伐採用・加工用とも楔のように扁平な形であるのに対して、大型蛤刃石斧は二枚貝を側面から見たようなふっくらした形で、刃先はハマグリの腹縁のように急角度です。両者とも表裏から刃が研ぎ出されているため、表裏対称形になっています。加工用の扁平片刃石斧は板状で、刃は現代の鉋や鑿のように片面に研ぎ出されています。機能によって形状が明確に作り分けられている点が、縄文時代とは異なります。大陸伝来の石斧の影響を受けたためと考えられています。(土橋 由理子)



(大型品)

(小型品)

大型蛤刃石斧

扁平片刃石斧

図1 縄文時代の磨製石斧(左4点) 南魚沼市五丁歩遺跡・小千谷市城之腰遺跡
弥生時代の磨製石斧(右2点) 柏崎市箕輪遺跡(右:幅6.1cm)



埋文 インフォ メーション

平成30年度春季企画展 火焰型土器 —縄文の息吹— を開催します

新潟の宝である^{かえんがたど}火焰型土器。圧倒的な迫力と優雅な造形を兼ね備えた姿からは、縄文の息吹を感じ取ることができます。十日町市指定文化財である^{のくび}野首遺跡の火焰型土器を一堂に集め、その歴史と魅力に迫ります。

- ◆ 日 時：前期 4月13日(金)～5月27日(日)
後期 5月29日(火)～6月24日(日)
9:00～17:00
- ◆ 会 場：新潟県埋蔵文化財センター
- ◆ 内 容：野首遺跡の火焰型土器10点や^{おうかんがた}王冠型土器8点のほか、^{どぐう}土偶、玉などを展示。
※写真の火焰型・王冠型土器は5月27日(日)までの期間限定公開となります。
- ◆ 観 覧：無料

- ◆ 関連講演会：定員80名（申込み不要）、時間は13:30～15:30、会場は当センター
※手話通訳・要約筆記が必要な方は開催日の2週間前までにご連絡ください。
- 4月22日(日)「土偶と火焰型土器」
石川 智紀（新潟県教育庁文化行政課）
- 5月20日(日)「縄文時代中期の大集落 野首遺跡
—火焰型土器を作った縄文人のくらし—」
菅沼 亘氏（十日町市博物館）
- 6月17日(日)「火焰型土器の造形」
宮尾 亨氏（新潟県立歴史博物館）



野首遺跡の火焰型土器・王冠型土器
(提供：十日町市教育委員会 Photo by T.Ogawa)

少年少女考古学教室（全4回）を開催します

平成29年度に引き続き少年少女考古学教室を開催します。学年や地域が違う仲間たちと交流しながら、^{どき}土器や^{せっき}石器などの^{いぶつ}遺物に触れ、様々な体験活動をとおして古代の人々の知恵や生活を学びます。全4回参加者には記念品をプレゼント！

第1回「縄文土器の観察と土器作り体験」

- ◆ 日 時：6月17日(日) 9:00～12:00
- ◆ 内 容：本物の縄文土器を観察し、土器の文様や特徴を学んだ後に、土器作りを体験します。
- ◆ 対 象：小学4年生～中学3年生（先着20名）
- ◆ 申込期間：5月1日(火)～6月15日(金)
- ◆ 参 加：無料
- ◆ 申込方法：氏名・学年・住所・電話番号・当日の連絡先を添えて当センターまでお申込みください。

- ◆ 電 話：(0250) 25-3981
- ◆ F A X：(0250) 25-3986
- ◆ メール：niigata@maibun.net
- ◆ 今後の予定：申込みはその都度受け付けます。
第2回9/9(日)「^{たてあなじゆうきよ}竪穴住居の観察と木の実採集」
第3回11/11(日)「^{きんぞくき}石器や金属器の観察と石器体験」
第4回1/27(日)「^{もくせいひん}縄文時代の木製品の観察と^あ編み物体験」



縄文土器を観察しよう



県内の
遺跡・遺物
100

行屋崎遺跡出土品77点

(平成29年3月21日 県指定有形文化財(考古資料))

所在地：南蒲原郡田上町大字原ヶ崎新田3070 遺物保管：田上町

行屋崎遺跡は、新津丘陵から信濃川へ注ぐ五社川右岸の微高地上に立地しています。国道403号の建設に伴う発掘調査によって、飛鳥時代(7世紀後半)の掘立柱建物16棟、溝32条、土坑130基などの遺構が見つかり、調査区南側の河川跡を中心に大量の遺物が出土しました。

出土品には、斧・鑿などの鉄器や作りかけの木製品など木工に関わるもの、鞆の羽口や鉄滓など製鉄に関わるもの、糸紡ぎに用いられた紡輪などが目立つ一方、農業に関わるものが少ないことが特徴です。こうした生活用具の様相から、稲作を基盤とする一般的な集落ではなく、各種の生産を行う場であったことが推測できます。

日常の煮炊きに使われた甕には様々なかたちや作り方のものがあり、多様な出自の人々が生活していたことが分かります。また、図1手前中央の高杯の脚部は東北地方に類例があるものです。

このほかに注目される遺物として、人や動物をかたどった土製品や銅製の鈴(図2)など、当時の都で行われた祭祀の道具と同じものが出土しており、集落の経営に公的な関与があったことがう



図1 飛鳥時代の土器(提供：田上町教育委員会)

かがえます。行屋崎遺跡が営まれたのは、『日本書紀』によれば淳足柵が設置された647(大化3)年から間もないころであるため、両者の間には何らかの関わりが想定できます。淳足柵も含めこの時期の遺跡の調査例は少なく、7世紀の越後平野の様相はよく分かっていません。一方、新津丘陵沿いでは行屋崎遺跡のほか、新潟市秋葉区の大沢谷内遺跡でもこれとよく似た集落が見つっています。こうした状況から、製鉄・窯業の燃料や各種道具の原材料となる森林資源に恵まれた丘陵地を拠点として平野部の開発が進められたと考えることができそうです。

行屋崎遺跡の出土品は、史料に記された淳足柵が設置されて以降の新潟平野の動向の解明に重要な手がかりをもたらすものと言えます。

(小野本 敦)



図2 金属製品
(1・2斧、3鋏、4耳環、5鈴、6鑿)
(田上町教育委員会蔵)

